

[資料 13]

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン改訂第3版 補遺作成のご提案

日本癌治療学会 ガイドライン委員会 御中

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン改訂第3版  
ガイドライン委員長  
九州大学大学院医学研究院  
社会環境医学講座 連携社会医学分野  
馬場英司

平素より大変お世話になっております。

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドラインの改訂第3版が2022年2月に発刊され、すでに1年以上が経過いたしました。

がんゲノム医療の進歩は日進月歩であり、また2019年のOncoGuide™ NCC オンコパネルシステム、FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイルの保険適用以来、5万人以上の方が包括的ながんゲノムプロファイリング検査を実施され、臓器横断的ゲノム診療の重要性は増すばかりです。

現在の成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドラインにおいては、臓器横断的治療標的として、dMMR、NTRK、TMB-H が挙げられています。しかし、昨今の医学の進歩から、新たな標的が話題となってきております。

米国FDAでは、すでにRET融合遺伝子を有する固形がんに対するSelpercatinib、BRAF V600E変異を有する固形がんに対するdabrafenib/trametinibの併用について、臓器横断的な承認を与えています。BRAF変異に対するdabrafenib/trametinibの併用療法は、本邦においても早ければ年内に承認される可能性があります。

このような背景から、上記の内容を反映するべく、成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドラインについて、補遺作成を提案させていただく次第です。同ガイドラインは、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本小児血液・がん学会による編集となっており、適切な学会間の連携、ガイドライン更新の方法についても含めご議論いただきたく存じます。

ガイドライン補遺作成にあたっては、第3版作成ガイドライン委員を中心に、CQの設定、文献検索、推奨作成等を行うことを提起いたします。

どうぞ高配いただきますようお願い申し上げます。

2023年4月吉日